

第2回大磯町障がい者福祉計画策定委員会 議事要旨

委員長

議題1の前に、まず、第1回策定委員会の時に委員から質問があったと思います。その際に次回の策定委員会で回答することになっていたと思いますので、事務局からお願いします。

事務局

特別支援学校に通っている子どもの人数については、第2章の中でご説明させていただきます。

コンサル 資料 第1回で要求されたクロス集計

事務局説明 資料 クロス集計表

意見交換

委員長

先ほどの説明について、ご質問などありますか。

委員

全体的に肢体不自由な障がい者についてで、聴覚障がい者についてのデータがない。町内にいる1級から3級の手帳を持っている聴覚障がい者の知人がいるが、年代別の聴覚障がい者が困っていることについてのデータはありますか。

事務局

今回の計画策定に対して行ったアンケートでは、特に障がい種別による回答の抽出はしておりません。寺澤委員のご指摘通り、聴覚の障がいを持たれている方は約90名大磯町にいらっしゃるが、そのうち重度の方が20名～30名で、そのうちのほとんどが高齢者で、若い方は生まれながらに聴覚に不自由がある方がほとんどとなっています。その方たちの意見について、今回のアンケートではピンポイントには焦点を当てていないので、工夫して拾えるようにします。

委員

2年ほど前から聴覚障がい者の手話についての言語条例が施策されているので、皆さんも簡単なものでよいので手話を覚えていただけると大変嬉しいです。他の身体障がい者の方と比べて聴覚障がい者は手話の通訳が必要なため苦労しています。

事務局

町としては平成25年度から手話講習会を始めていますが、まだ数年しか経っておらず道半ばなところですが。講習会は毎年多くの方に参加頂いているので毎年続けたいと考えています。他にも手話の周知の方法があれば当事者の方の意見を教えていただきながら考えていきたいと思っています。

1. 大磯町障がい福祉計画等素案について

事務局説明 資料 大磯町障がい者福祉計画素案第1章～第3章

意見交換

委員長

それでは、議題1の大磯町障がい者福祉計画素案の第1章から第3章について、皆様からご質問・ご意見はございますか。

委員長

14ページの人口・世帯動向について教えて頂きたいのですが、平成22年から27年の5年間で人口が減っているのはどのような理由が考えられますか。

事務局

やはり、生まれてくる子供の数が減っているのに対し亡くなられる高齢者の方が多くなっている自然減が考えられます。大磯町については、転入等の人口流入が多いため他の市町村より極端ではありませんが、今の全国的な流れの中での減少幅が出てきていると思います。

委員長

全国的に減り始める分岐点が大磯町ではこのように反映されているということでしょうか。

委員長

そうすると、32ページにある平成29年度の将来像のところに障がい者の数が予測として出ていますが、その時に人口はどのくらい減っているのでしょうか。

事務局

ここでは人口の推計は出していませんが、減っていくことは減っていくと思う。資料にあるように、大磯町の人口は平成28年度に31,467人となるので、そこから徐々に減少していき、いつ3万人を割るかわからないが、町としてはそうならないよう取り組んでいます。ある程度の減少は避けられないため、人口が減少しつつ障害者手帳を持たれる方が全体として増えるという構図にどう対応するか、町として準備しなければと考えています。

事務局

補足で説明させて頂くと、今回の素案では障がい福祉計画として比較的近い将来の人口推計をお示ししていますが、もう一つの高齢者福祉計画の方では比較的長いスパンで人口の動向を見ているので、そちらを確認して再度分析させて頂きます。また、今回の国勢調査の人数を基に、将来を含めた人口の数字をとっているが、国勢調査についてもご高齢の方の回答が困難な状況にあり、年齢不詳という回答が前回に比べて今回多く出てきているという背景があるので、どれほど緻密なものが3年間で追えるか定かでないところがあるが、高齢者福祉計画と合わせて分析を行いたいと思います。

委員

14 ページの人口・世帯の動向のところについて、平成7年・12年・17年・22年というふうに5年ごとの推移が示されているが、これは国勢調査で出された数値になるのでしょうか。

事務局

はい。それと大磯町の統計から算出しています。

委員

グラフを見ると、平成22年から27年にかけて衝撃的に人口が減少していますが、このような国勢調査の数値に加え、町の人口統計の数値が平成28年に出されており、異なる統計の数値が出されているわけですが、このあたりの数値の捉え方というのは非常にナイーブで目を引く部分だと感じたので、出典をもっと詳細に載せたり、もう少し慎重な数値の載せ方をした方がよいと思いました。

事務局

数値の載せ方について、もう少し整理しようと思います。

委員

30 ページに地域の施設・事業所の一覧があるが、これは大磯町としては他の市町村と比べて多いとか少ないといったことはあるのでしょうか。

事務局

こちらには地域の社会資源として一覧を載せていますが、表中にある市町の人口規模に比例した数となっている状況です。平塚市が一番多く、その次が秦野市、伊勢原市とり、大磯町と二宮町は合計では同じ数ですが、大磯と二宮は常に連携しています。もちろん施設や事業者が多い方が選択肢が増え、良いですが、まずは不足している部分である子供や精神については増やさなければならないと思います。

委員

31 ページにあるボランティア団体については他の市町村と比べてどうですか。

事務局

すみません、他の市町村のボランティア団体については承知していませんが、大磯町と二宮町は概ね同じくらいだと思います。こちらのボランティア団体についても前回の計画よりは若干減っていて減少傾向にあるので、決して大磯町の数が多いとは捉えていません。

委員

今後ボランティア団体に力を入れるということは考えていますか。

事務局

ボランティアの育成という役割がありますが、福祉だけでなく、観光や環境などいろいろな分野のボランティアがあるので、それらの全体で育成は考えていかないといけないと思います。

委員

今「観光」という単語が出ましたが、大磯町を活性化させるにはそうしたボランティアも必要だと思いますので、それを含めた全体的な考え方を聞きたかった。

事務局

ボランティアにつきましては、大磯町の社会福祉協議会が主となって育成を担って頂いていますので、社協と連携しながらやっていこうと思います。

副委員長

22 ページの就学状況について、特別支援学校を見ると前回 30 名だったのが今回 24 名となっている。特別支援学校の数字だけを見ると、手帳を持った方が特別支援学校から中学校に移る傾向があるように見えるのですが、これは大磯町でインクルージョンの方向性が実施されているという分析ができるのではと考えるのですが実際はどうでしょうか。

事務局

すみません、今回教育委員会の委員が欠席のため担当が不在ですが、実際にこの何年かで特別支援学校に行く方よりも地域の学校に進まれる方が多い印象がありますし、地域の学校が受け入れる体制が町で進んでいるということが言えると思います。

副委員長

他の自治体と比べて非常に珍しい方向性を感じたので、そうした傾向を指摘されると次の計画に繋がるのでは。

事務局

それでは、こちらに関する細かい統計やその動向の原因をもう少し分析できたらと思います。

委員

次に 56 ページで、精神障害者保健福祉手帳所持者の回答結果では、役所よりも親族に頼る方が多いとなっているので、文章と表で結果が異なっているので修正をお願いします。

事務局

すみませんでした。そちらの 2 点については修正いたします。

事務局説明 資料 大磯町障がい者福祉計画素案第 4 章～第 6 章

意見交換

委員長

それでは、第4章から第6章について、何か質問はありますか。

委員

精神の方は特に統合失調症の方が多いと思いますが、若くして病気になり自宅で親御さんと暮らしている方は親御さんがしっかりしているうちは一緒に暮らしていけば大丈夫と思ってらっしゃるが、いずれ親が亡くなった時のことを考えると、精神の方はどうしても人との関わりが難しいので、一気に自立するよりまずワンステップとしてグループホームが大事になると思うのですが、ご本人たちがそうしたことを想定できていないのではと43ページの回答結果を見て感じました。

そのために、精神の方が入れるグループホームが大磯町にできればよいのですが、過去にそうした施設を作ろうとして地域の反対があり断念したという事例が2つあったので、グループホームの支援をするにあたり、そうした事例を踏まえて具体的な支援をして頂ければと思います。

事務局

グループホームが地域の方の反対で実現しなかったということは私の方でも承知しておりまして、その時に町の方にも抗議の方が来られて、町の立場としては必要な施設ですという説明を繰り返しましたがなかなかご理解いただけなかったというのが当時の状況です。確かに大磯町では精神障がい者の方が入れるグループホームがありませんが、自立支援協議会の中でもグループホームの必要性については協議しています。

副委員長

今のに関連して、年代別の障害者手帳を持っている方の数が9ページに出ていましたが、精神の方は43名中40代が13名で一番多く、その次に30代、50代と続いています。その中で3名ほどグループホームに住んでいるという方がいるのですが、グループホームの定義が違うのでしょうか？40代、50代の方が多いということでその親御さんも高齢化が進むと思うのでこれから顕在化してくる問題だと思います。

委員

私もグループホームに少し関わっていて、なかなかグループホームができないのを見てきたのですが、当時は差別解消法ができる前で、今回の障がい者福祉計画では昨今の行政の理念が盛り込まれていると思う。

委員長

お金の問題もありますが一体誰が実行するんだということが計画の中では常に課題となりますが、今のグループホームの話についても、すでにあるもののうち、夜間の支援者がいないところがほとんどです。夜間も世話人を確保できるホームを作るのは難しいし、地域の理解はもちろんですが物件自体が見つけづらいという問題もあります。それらの問題をクリアするために、行政だけでなく多くの人が関わり少しずつ焦点を当てて重点的に解決する道筋を立てていければと思うが、他の市町村の取り組みの事例など事務局でご存知ではないですか？

事務局

大磯町でのグループホームの反対の声が多かった時に近隣の担当者に聞いた話では、その方も地域住民の反対に関してとても苦労されたとのことだったが、行政としては住民が窓口に来れば説明はするが、実際は施設を建てる法人の裁量でやってもらっていたとのことだった。それが5年以上前のことなので、それから障害者差別解消法ができたりと状況が変わり、どの市町村でもグループホームが必要だというのは大前提ですが、増やし方については行政としてどうすればよいかと悩んでいるところではあります。

委員

私は横浜市で重症心身障がい者のグループホームの看護師をしていて、大磯町でも重心の方のグループホームができればと思っています。できればそうした所で働きたい、勉強したいという方に向けて知識や技術を伝達できる方を育てる機会を町で設けたり、そうした希望者を募るシステムができればよいと思っています。

事務局

情報の発信については行政としてお手伝いできるかと思います。重心認定をするのが神奈川県の子童相談所ですが、そこから大磯町に重心の方が何人いるかは教えてもらえないようになっているため、取り組みがスムーズにできないことがあります。今言われた働きたい人や知識をつけたい人に対してホームページを活用して住民の方への橋渡しとなることはできると思います。

委員

聴覚障がい者のために手話通訳者の設置をして頂ければ助かります。役場の受付に通訳が設置されていれば聴覚障がい者は安心してコミュニケーションが取れると思うのでお願いします。二宮町では、月曜と水曜の週2回通訳者が設置されています。

事務局

以前からそのような要望は伺っていますので検討していきたいと思います。

委員

先ほど委員が言われた横浜の重心のグループホームに見学に行ってもよろしいですか？私は民生委員と障がい者担当の部会長をやっているので、民生委員の方たちに是非見てもらいたいと感じました。

委員

今私が働いているグループホームも地域住民の反対を受けて建てるのに時間がかかりましたが、横浜市で最初の看護師が夜間も常勤しているグループホームで、現在市内では3か所ほどに増えている。重心の方に限らず、精神の方でも今は施設でなくグループホームなど地域で暮らす時代だと思うので、どんなに小さなグループホームでも大磯町にも作れたらと思う。

日にちだけ言っていただければ構わないのでいつでも見学にいらしてください。

委員

二宮町にも精神の方のグループホームが2か所あるのでいらしてください。

委員

私は県の障がい者相談員もしているが、その中で今の制度のままではグループホームに夜間スタッフを置くことは無理だということははっきりしている。神奈川県の実務委員会も進行中で具体的なことはこれからだと思うが、各地域の現状を踏まえた上で今後県と市町村が連携して施策を進めて頂きたい。

委員長

私は夜間の世話人を置くことは可能だと思います。比較的障がいが軽い方のグループホームとなると運営が厳しいと思うが、障がいの重い方がいらっしゃるようなところが夜間に支援者を置く仕組みが出来上がっている。ただ、働き手がいけないことが問題で、募集をしても人が来ないことに危機感を感じている。

委員

おっしゃる通り、このままの制度では軽度の障がいの方よりもかえって重度の方のほうが受け入れられやすいというのが現状。

委員長

障がいの程度に関わりなく、それぞれに必要な支援について個別に考えていかなければなりませんね。

委員

私は夜勤のみで働いているのでその分負担が多いからということで週休3日なのですが、そうした緩和条件などをつけても人は集まらないですか？

委員長

だめでしょうね。いろいろなことが絡んでいると思うが、横浜で事業をやるのと大磯でやるのでは収入が全然ちがうという地域格差がある。そもそも横浜市の人口減少の割合よりも大磯の割合の方がずっと高いため、そうした要因を考慮しつつこの委員会から何か具体的な策につながるものがあればいいと思う。

委員長

それでは終わりの時間が近づいていますが、事務局から何かありますか。

事務局

今後のスケジュールですが、本日の資料の第5章の目標値について、県から情報を得て、早急に定めたいと思います。また、パブリックコメントを行いますので、期間は11月15日から12月14日の1か月としたいと思います。広報は10月27日発行となり、ホームページでも並行して周知していく予定です。委員の皆様にはパブリックコメントの前までに、修正後の素案をお届けさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

また、次回の開催日・開催時間ですが、予定では、年明けの1月第2週あたりで開催したいと思っております。あらかじめ都合が悪い日がありましたら教えていただければありがたいです。できるだけ早く日程を決め、皆様にお知らせします。

委員

10月中旬に修正した素案をお送り頂けるとのことですが、パブリックコメントを行う前に素案の文言や内容について委員で集まる機会はないのでしょうか？何か文言など直していただきたいものがある場合はどうすればよいですか。

事務局

その場合は事務局まで直接言って頂ければ、修正できるものはこちらで修正してお出しいたします。

ただ、時間的に県のスケジュールがわからないため、もし県からの情報が出せない場合、町として作ったものを皆様にお届けしてそのままパブリックコメントを行い、その中で県が出してきたものについて修正していくという流れになるかと思います。

委員長

その他に無いようでしたら、以上をもちまして平成29年度第2回大磯町障がい者福祉計画策定等委員会を閉会します。ありがとうございました。